

# AGI 東アジア12カ国・地域経済動向

東アジア 12カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2021年第4四半期）

## グラフの読み方

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDP には名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の関係を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1 とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2 は M1 に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

図3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 自国通貨と米ドルとの交換レート（ドル／自国通貨）。指数の上昇は自国通貨高、下落は自国通貨安を示す。自国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

図4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL : 093-583-6202 / URL : <http://www.agi.or.jp>

# 日本の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

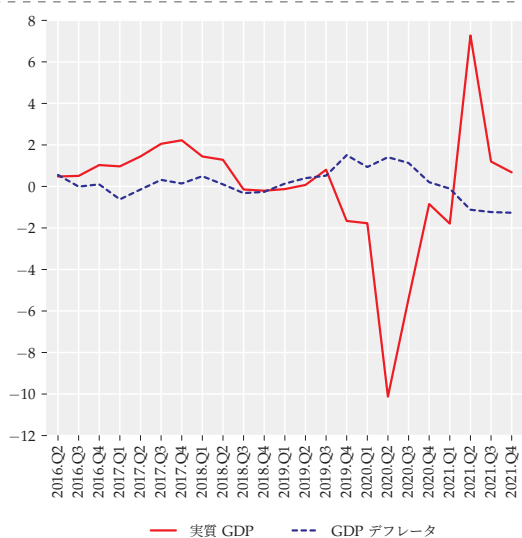


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

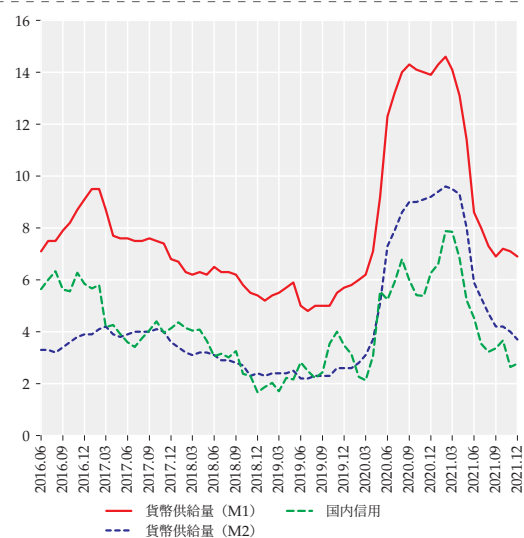


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

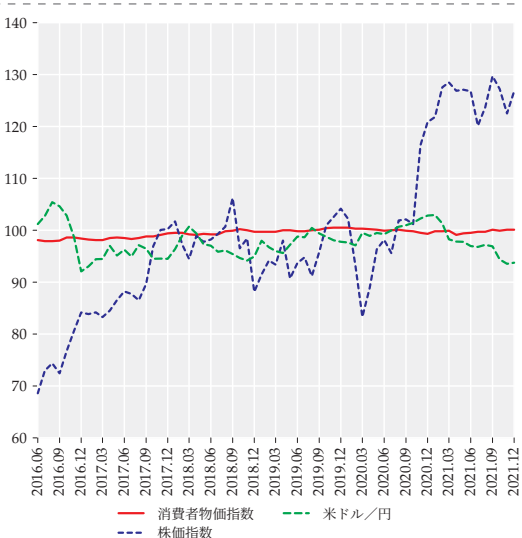
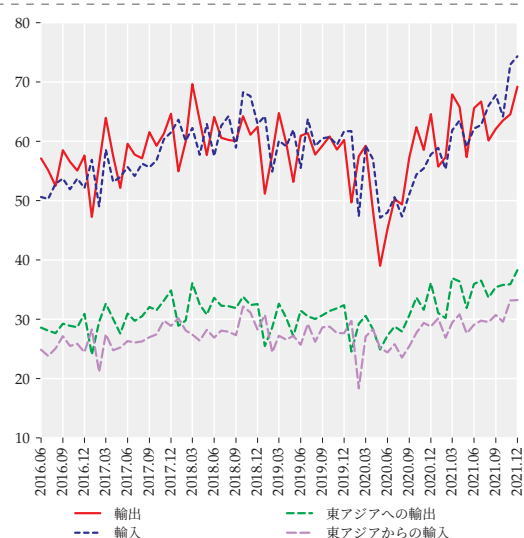


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



## 日本経済の動向 (2021年第4四半期)

2021年第4四半期の実質 GDP の伸び率は0.68%となった(前年同期比, 速報値)。前々期の7.27%, 前期の1.20%から2四半期連続で減速したものの, プラス成長を維持した。新型コロナウイルス感染症が抑えられていたこともあり, 第4四半期の民間最終消費支出は前年同期比で1.86%(前期は0.48%)となり, 成長を牽引した。一方, 民間企業設備は0.12%(同1.03%)と減速した。また, 政府最終消費支出は0.92%(同1.97%), 公的固定資本形成は-10.91(同-5.72%)といずれも大きく減速している。2021年末より, 緩やかな円安傾向が続いており, 2022年1月にはおよそ5年ぶりとなる1米ドル=116円台の円安水準となった。資源価格の高騰もあり, 2022年は緩やかに物価が上昇することが見込まれている。オミクロン株を中心とする新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第6波)にともない, 多くの地域で「まん延防止等重点措置」が実施されており, 物価上昇と合わせて, 消費の落ち込みによる経済への影響が懸念される。(田村一軌)

## 中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

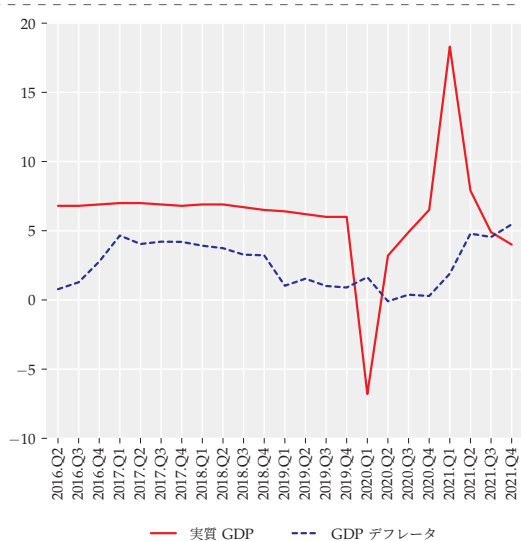


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

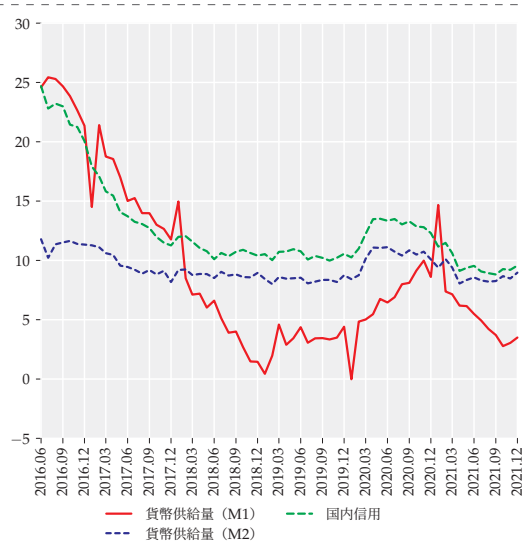


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

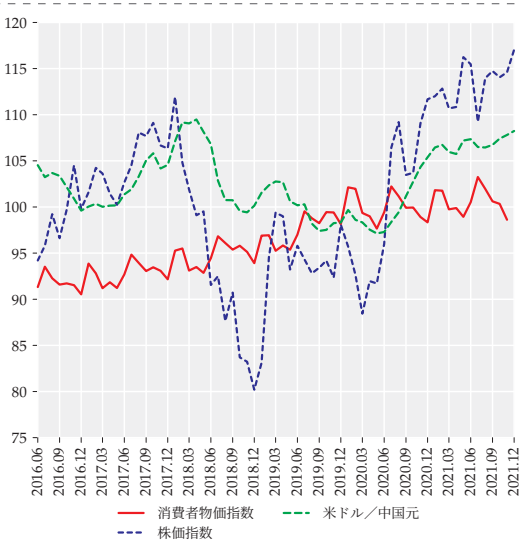
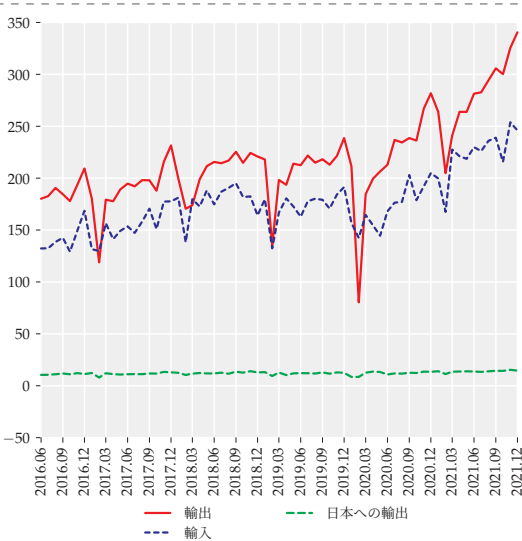


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 中国経済の動向 (2021年第4四半期)

第4四半期の実質 GDP 成長率は4.0%と減速した。産業別の成長率をみると、第一次産業は6.4%、第二次産業は2.5%、第三次産業は4.6%になっており、いずれも第1~第3の各四半期の成長率を下回った。特に、「恒大集団」の財務危機を発端に、不動産開発企業への融資が厳しくなり、建設業と不動産サービス業は第3四半期からマイナス成長を続けている。第4四半期の実質 GDP 成長率の構成別貢献度をみると、国内最終消費は85.3%、固定資本形成は-11.66%、純輸出は26.4%になっており、不動産関連セクターの低迷と固定資本形成の減速との相関関係が鮮明になっている。コロナ感染抑制の成功に伴う上半期の強い経済回復によって2021年通年の実質 GDP 成長率は8.1%になったものの、不動産産業やオンラインサービス業などに対する一連の厳しい規制によるマイナスの影響が顕在化している。3月5日開幕の「全人代」における李克強総理の報告では、2022年通年の実質 GDP 成長率を「5.5%前後」と引き下げている。(戴 二彪)

## 香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

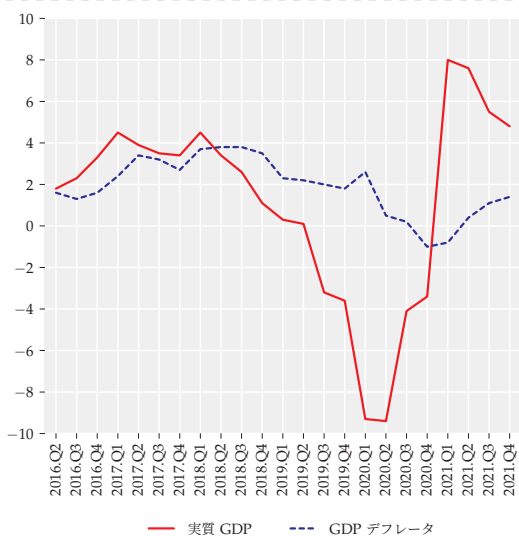


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

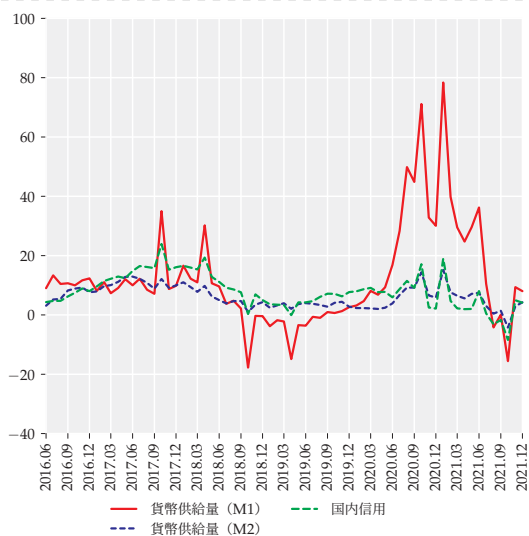
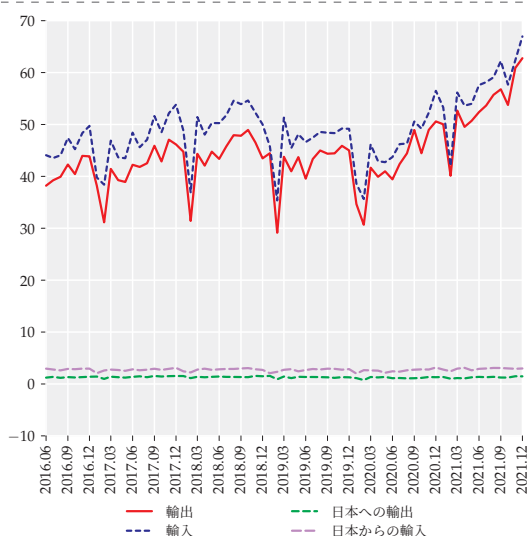


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 香港経済の動向 (2021年第4四半期)

香港政府の発表によると、2021年第4四半期の対前年同期比実質 GDP 成長率は4.8%となった。第1～第3四半期の8.0%、7.6%、5.5%から減速したが、2021年通年の実質 GDP 成長率は6.4%と2010年以来の高い成長率を達成した。中・米・欧など世界主要市場の経済回復につれて、第4四半期の香港の財貨総輸出（中継輸出と地場輸出の合計）は対前年同期比13.3%増となり、第1～第3の各四半期の伸び率（30.8%、20.2%、14.2%）を下回るが、堅調に推移している。第4四半期のサービス輸出全体も、インバウンド観光がほぼ停止しているなか、対前年同期比6.9%増と改善した。ただし、米国の金融緩和縮小に伴い、香港も同じ方向で調整しており、第4四半期の固定資本形成は対前年同期比0.1%増にとどまった。また、2022年2月以降、香港におけるコロナ感染が爆発的に拡大しており、回復中の香港経済への打撃が避けられない。2022年通年の実質 GDP 成長率について、香港政府は「2.0～3.5%」と慎重に予測している。（戴 二彪）

## 韓国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

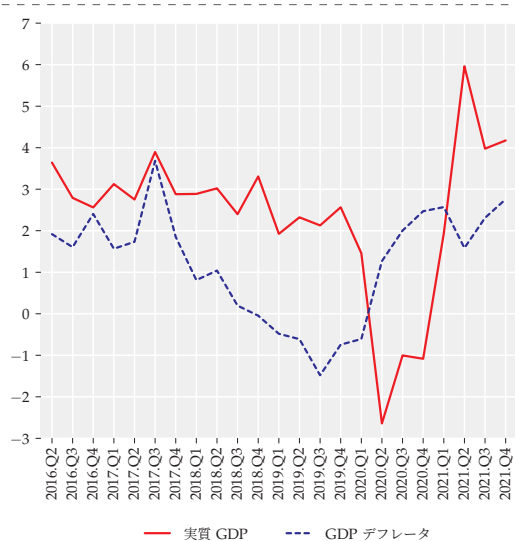


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

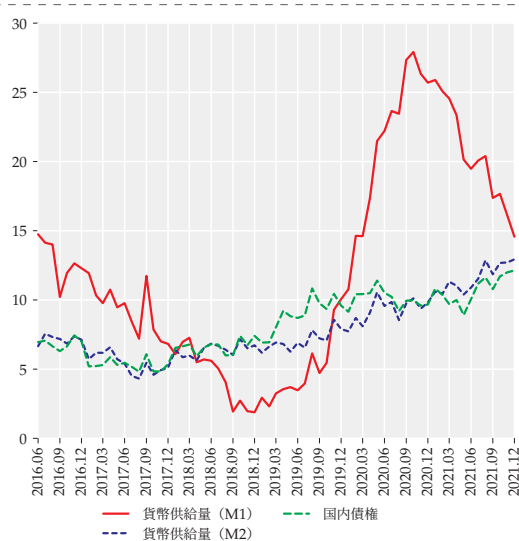


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

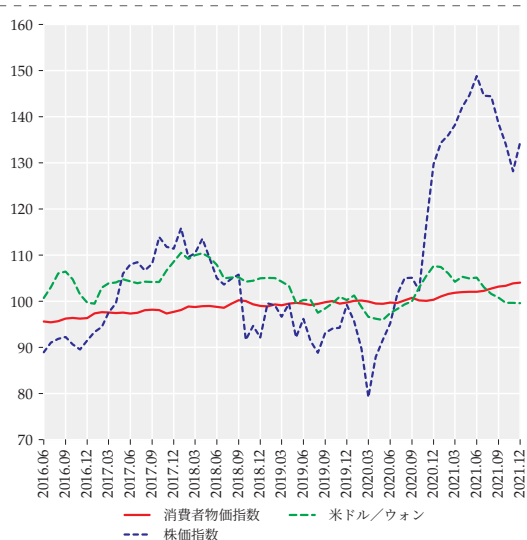
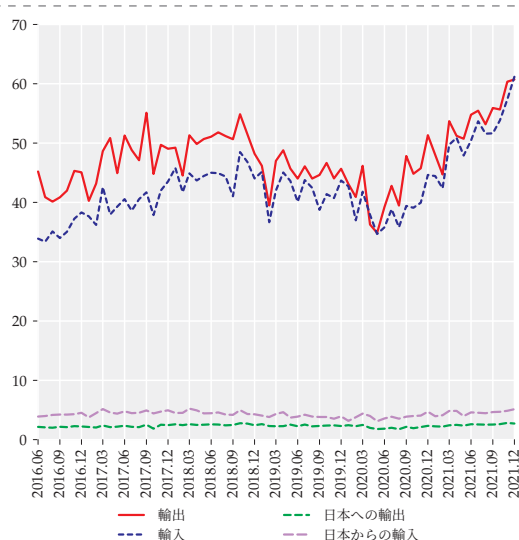


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 韓国経済の動向 (2021年第4四半期)

韓国の2021年第4四半期の実質 GDP の伸び率(前年同期比, 以下同じ)は4.17%で, 前期の3.98%からやや上昇した。なお, 通年では4.02%と前年の-0.85%から完全に回復したと思われる。12月末の株価指数は2,977.65, 1米ドル=1,183.70ウォンであった。1年以上続いた株価の上昇がひと段落し, 2020年末からのウォン安傾向がより鮮明となった(9月末の同指標は3,068.82, 1,169.54ウォン)。輸出が24.55%と前期の26.50%から引き続き上昇傾向を示した。また, 輸入も39.38%と前期の37.55%から引き続き大幅な伸びを示した。「ウィズコロナ」を維持した結果, 新規感染者数が過去最高を更新するようになっている。一方で, 過去最低の0.50%まで引き下げてきた政策金利だが, 家計債務の拡大による金融不均衡の影響が大きく, 8月26日, 11月25日に続き, 1月14日には, 1.25%に引き上げられた。大統領選が行われ, 間もなく結果も分かるだろうが, 誰が大統領になっても, 日本との関係はよくなるまいだろう。(坂本 博)

## 台湾の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

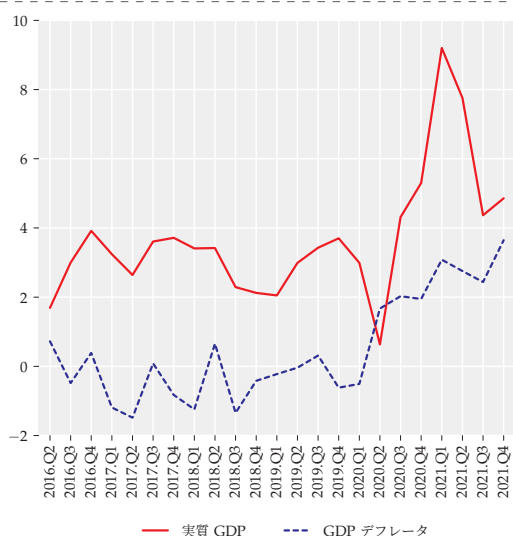


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

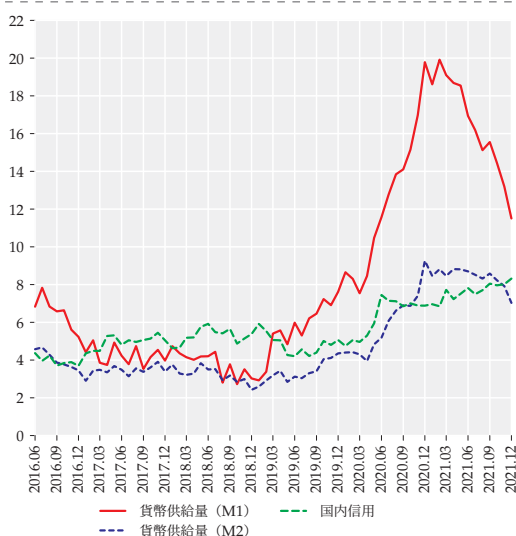


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

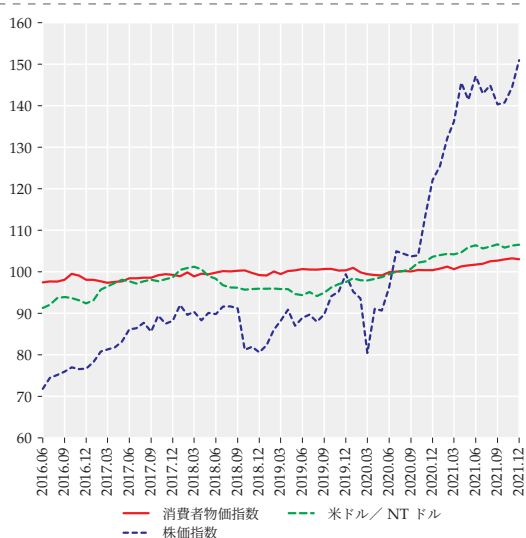
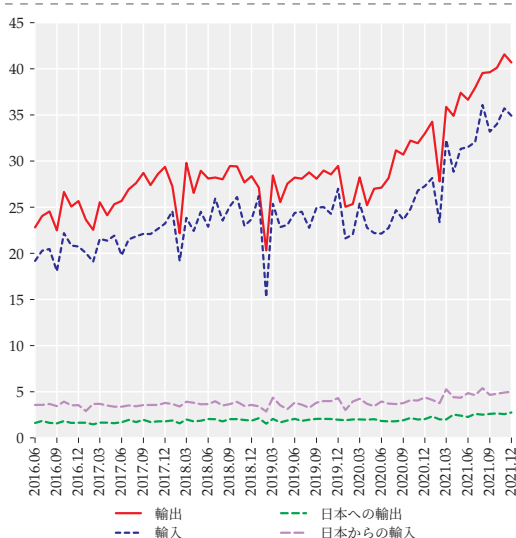


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 台湾経済の動向 (2021年第4四半期)

台湾の経済成長率は、2021年第1四半期～第4四半期で、各々、9.20%、7.76%、4.37%、4.86%である。2021年通年の成長率は6.45%、1人当たりGDPは3万3,004米ドルとなる。2022年通年の成長率は4.42%と予想される(主計總處2022年2月24日付資料)。国際貿易では、2021年通年の輸出額は4,464億米ドル、輸入額は3,815億米ドルで、対前年比の伸び率は、各々、29.3%と33.3%であった。主要貿易相手国・地域別に輸出額とその伸び率をみると、中国・香港1,889億米ドル、24.8%、ASEAN702億米ドル、32.0%、米国657億米ドル、29.9%である。主要輸出品目別に輸出額とその伸び率をみると、ICを含む電子部品は1,720億米ドル、26.9%、ICT製品は613億米ドル、24.8%であった(財政部2022年2月23日付資料)。台湾IC企業最大手TSMC社の2021年の売上高は568.2億米ドルで、純利益は213.5億米ドルを記録した(TSMC社資料)。(岸本千佳司)

## インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

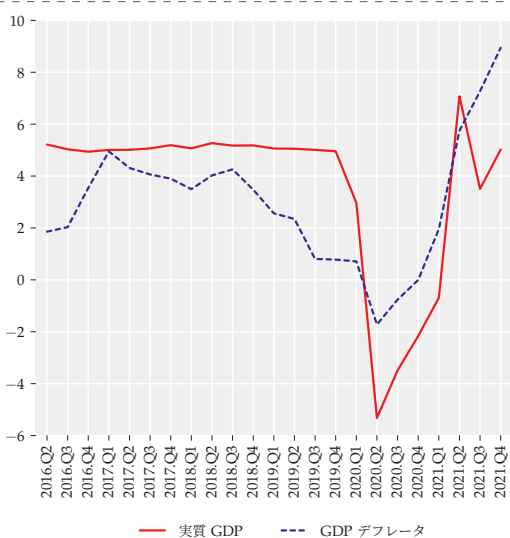


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

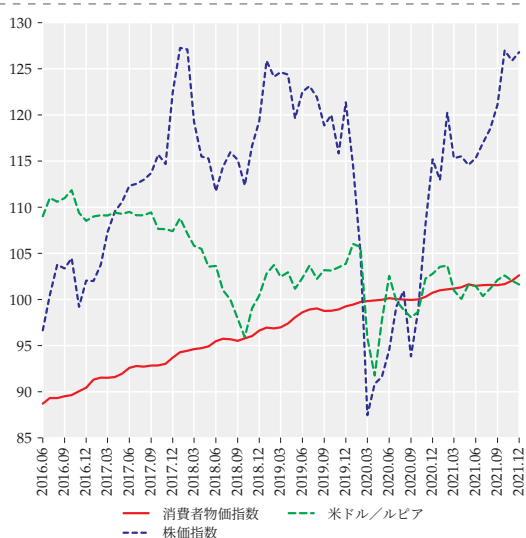
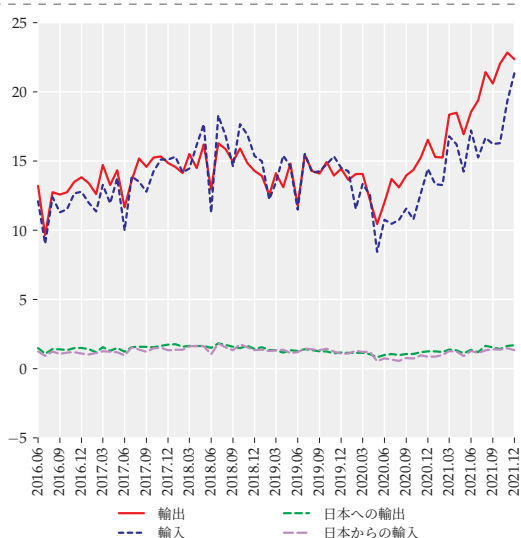


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インドネシア経済の動向 (2021年第4四半期)

インドネシアの2021年第4四半期における実質 GDP の伸び率は(前年同期比, 以下同じ), 5.02%となり, 前期の3.51%から更なる回復傾向にある。なお, 通年では3.69%となり, 前年の-2.07%を取り返したものの, かつての5%成長には及ばない。前期から感染状況が改善し, 経済活動の再開が進められたと思われる。外需は引き続き好調で, 輸出は前期の50.7%から45.7%, 輸入は前期の47.0%から50.4%と引き続き大きな伸びを示し, 過去最高となっている。昨年末には1米ドル=約14,200ルピアであった為替は, その後も14,000ルピア台で推移している。昨年末には5,979.07ポイントと急上昇した株価は, さらに上昇傾向となっている。2月に3.50%に引き下げた政策金利は, その後変更していないものの, 金融指標の伸びが再び上昇に転じている。コロナ禍が一服し, 経済が回復傾向になるにつれて, 再び首都機能の移転の話が浮上している。

(坂本 博)

## マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

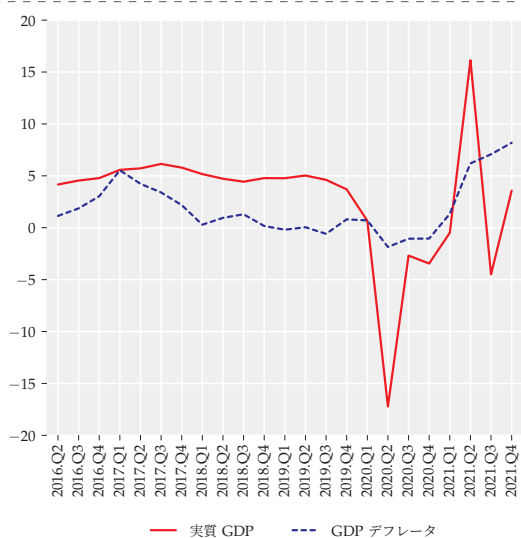


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

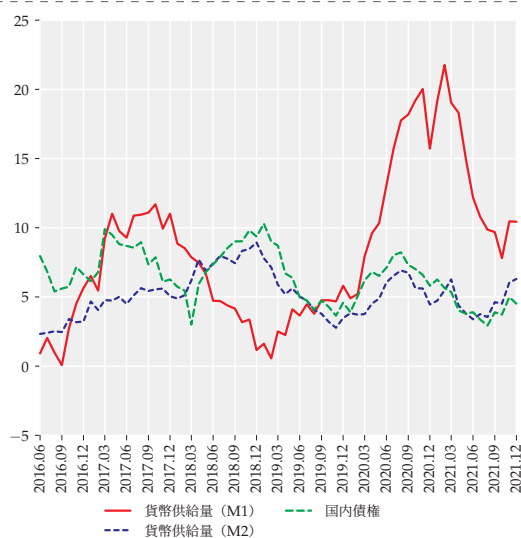


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

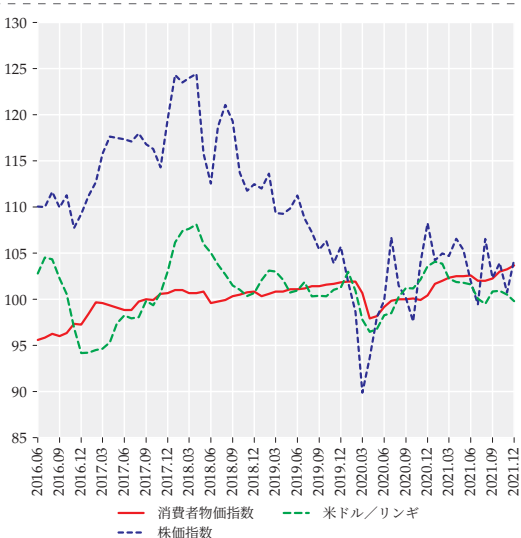
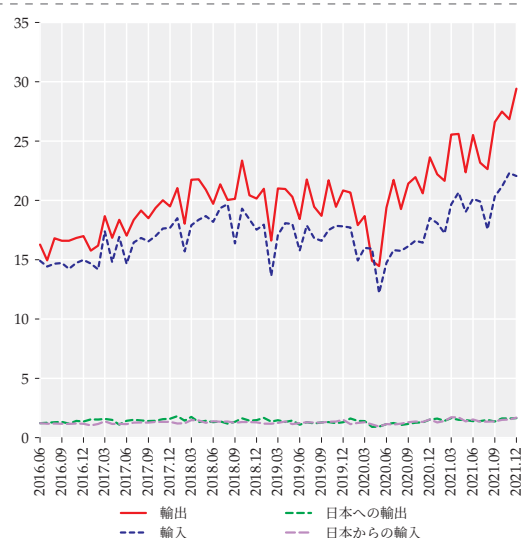


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### マレーシア経済の動向 (2021年第4四半期)

マレーシアの2021年第4四半期の実質 GDP の伸び率は(前年同期比, 以下同じ), 3.58%となり, 前期の-4.49%からプラスに転じた。なお, 通年の伸び率は3.13%で, 前年の-5.65%に対し, 完全に回復したとは言いがたい。民間消費が前期の-4.2%から3.7%に転じ, 政府消費も前期の8.0%から4.3%とプラスを維持している。また, 総固定資本形成はマイナス成長であるものの, 前期の-10.8%から-3.3%と大きく改善している。外需も引き続き好調で, 米ドルベースの貿易額は, 輸出が前期の16.03%から26.53%, 輸入は前期の21.23%から27.12%と伸び率を上げ, 過去最高水準を維持している。一方で, M1の伸びに陰りが見られ, リンギおよび株価も, 2018年以降は低下傾向である。イスマイルサブリー新政権下, ワクチン接種が順調に進み, 8月末には, 新規感染者数は鈍化に転じるようになった。また, 活動制限も段階的に緩和したため, プラス成長になったものと思われる。(坂本 博)



## フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

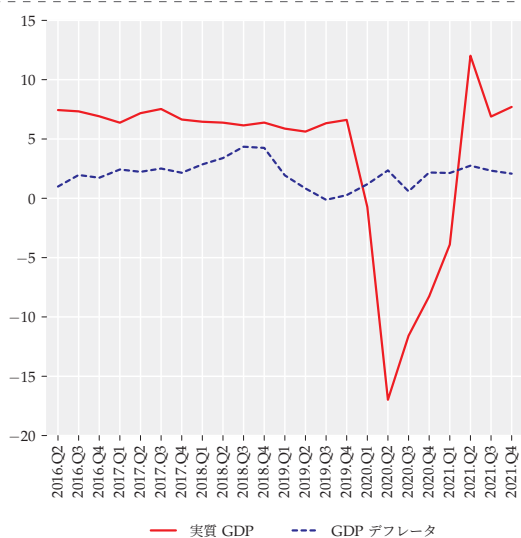


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

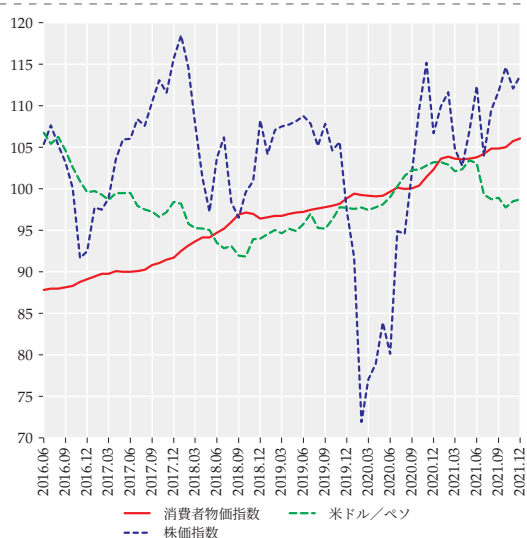
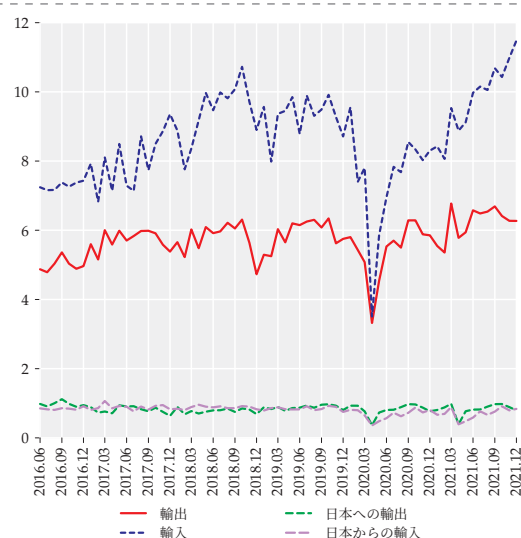


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### フィリピン経済の動向 (2021年第4四半期)

フィリピンの実質 GDP 伸び率は、2021 年第 1 四半期～第 4 四半期で、-3.9 %、12.0 %、6.9 %、7.7 %と推移した。2021 年通年では 5.6 %とまずまずの伸び率であったが、これは 2020 年の -9.6 %からの反動という面もある。2021 年第 4 四半期の実質 GDP 需要項目別では、前年同期比の伸び率で、民間最終消費支出は 7.5 % (前期は 7.1 %)と堅調で、政府最終消費支出は 7.4 % (前期は 13.8 %), 総固定資本形成は 9.5 % (前期は 15.5 %)と何れもやや低下したものの一定の伸びを示した。財・サービスの輸出は 8.3 % (前期は 9.1 %), 同輸入は 13.7 % (前期は 13.0 %)と、前期と同程度を維持した。第 4 四半期の伸び率を産業別にみれば、第 1 次産業 1.4 %, 第 2 次産業 9.5 %, 第 3 次産業 7.9 %で、第 2 次産業の貢献が大きい。より細かく見ると、同四半期の堅調な伸びに主に貢献したのは、製造業 7.2 %, 卸売・小売, 自動車・バイクの修理業 7.4 %, 建設業 18.5 %である。

(岸本千佳司)

## シンガポールの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

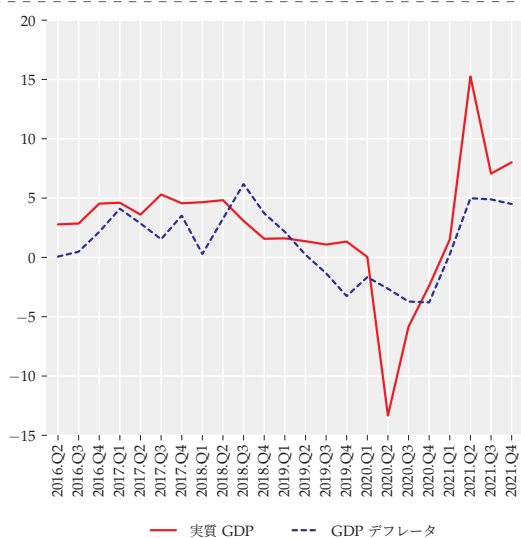


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

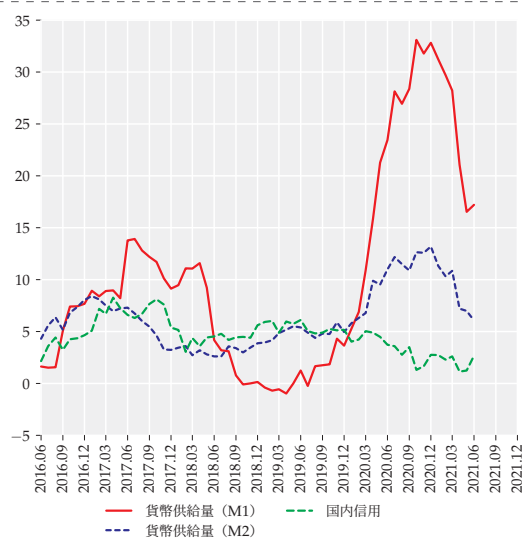
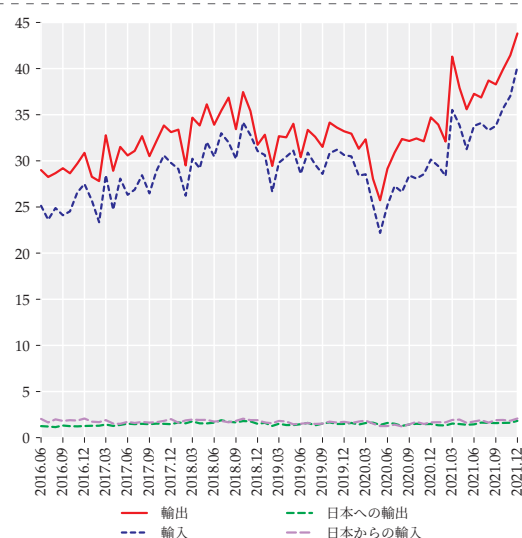


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### シンガポール経済の動向 (2021年第4四半期)

2021年第4四半期のGDPは前年同期比で6.1%拡大し、前期からの成長傾向を継続した。これにより2021年のGDP成長率は7.6%となり、年初の予測値(7.2%)を上回った。生産側からみると、製造業は前年同期比で15.5%成長し、前期の7.9%から加速した。特に精密機器・電子機器および輸送機器部門が最大の伸びを示した。建設業は、公共部門・民間部門ともに生産額が増加し、3四半期連続でのプラス成長となる2.9%増となったが、前期の69.9%からは減速した。卸売業は前期の5.5%増から3.3%増へ減速したが、小売業は前期の0.9%増から4.3%増へ改善した。専門家は、世界的な供給のボトルネックとロシアとウクライナの紛争によるエネルギー価格の上昇により、短期的には経済成長に影響を与える可能性があるかと予想している。しかし貿易産業省(MTI)は、新型コロナウイルス感染症に伴う社会経済活動の制限緩和が消費者向け産業の回復に貢献するととして、2022年のGDP成長率の予測値を3.0~5.0%に据え置いた。(アルバロ・ドミンゲス)

## タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

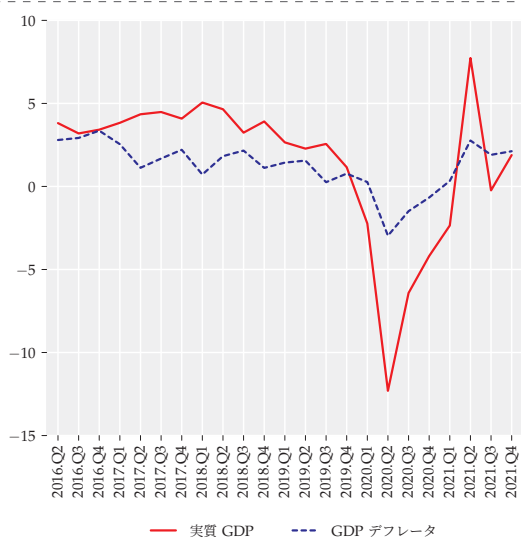


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

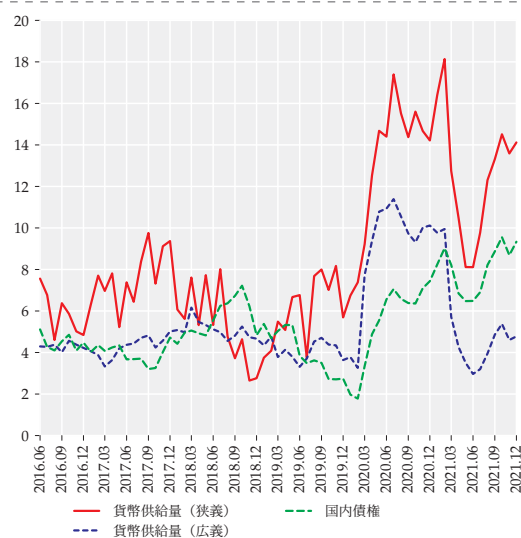


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

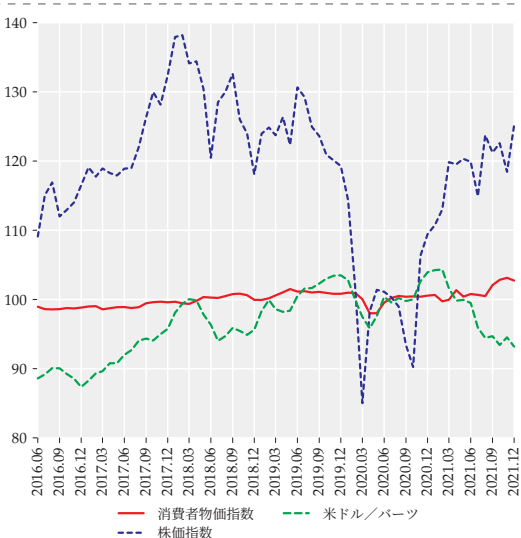
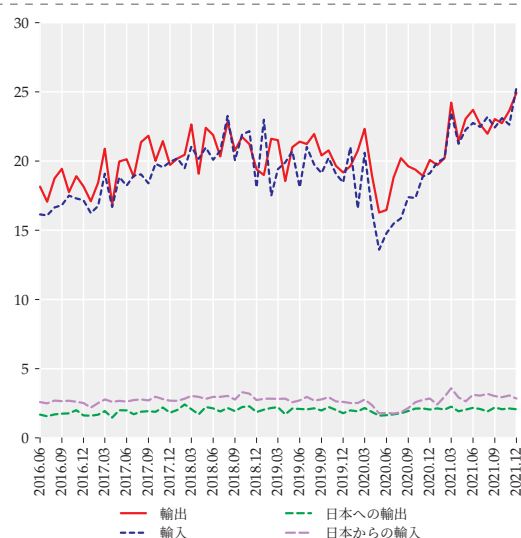


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### タイ経済の動向 (2021年第4四半期)

2021年第4四半期の実質 GDP 伸び率は前年同期比で 1.89 %となり、前期の -0.24 %からプラス成長に転じた。2021 年通年の成長率は 1.57 %となり、前年の -6.20 %から大きく回復した。生産側からみると、GDP の 3 割を占める工業部門が前期の -1.68 %から 2.64 %へと回復した。また GDP の 6 割を占めるサービス業も前期の 0.32 %から 1.61 %へと成長が加速した。特に、運輸・倉庫業が前期の -1.43 %から 3.17 %へ、宿泊・飲食業が前期の -18.97 %から -4.88 %へと大きく改善した。新型コロナウイルス対策としての行動制限や外国人旅行者の入国規制が緩和され、経済活動が持ち直したとみられる。さらに貿易も好調で、第 4 四半期の輸出額は前年同期比で 22.09 %増の 713 億米ドル、輸入額は 29.35 %増の 710 億米ドルと、いずれも過去最高を記録した。国家経済社会開発委員会は、国内需要の拡大、観光部門の回復、輸出の継続的な拡大が見込まれるとして、2022 年の実質 GDP 成長率の予測値を 3.5~4.5 %に据え置いている。(田村一軌)

## ベトナムの経済指標

図1：実質 GDP の伸び率

(前年同期比, %)

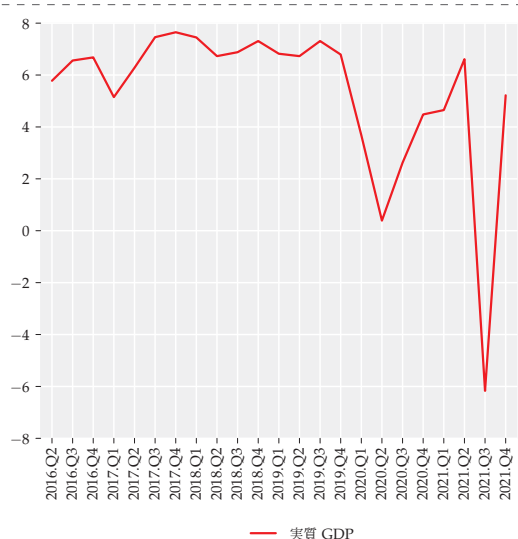


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率

(前年同月比, %)

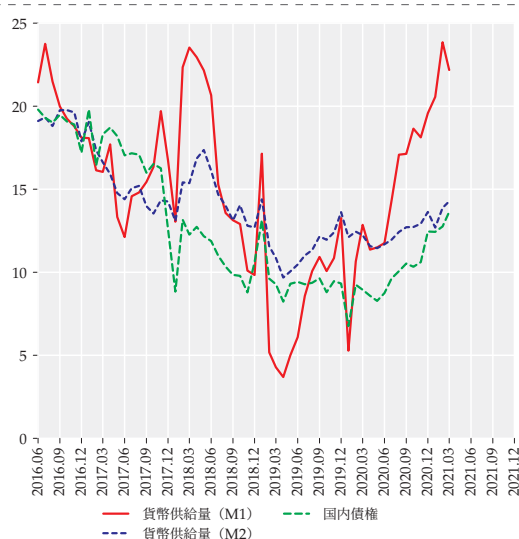


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数

(2020年=100)

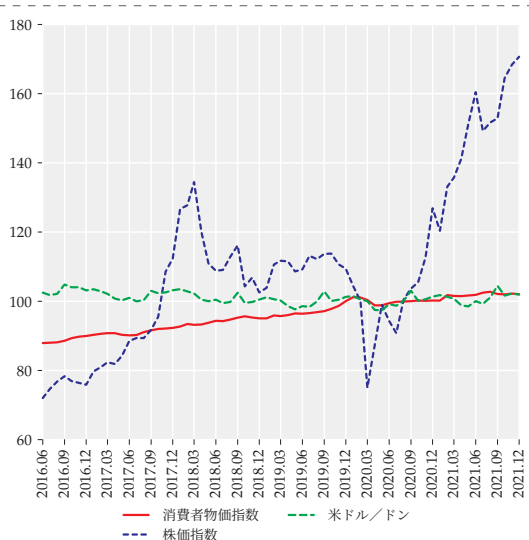
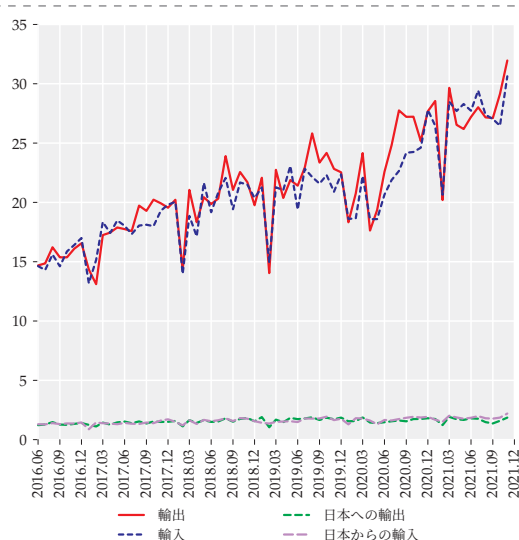


図4：輸出額と輸入額

(10億米ドル)



### ベトナム経済の動向 (2021年第4四半期)

2021年第4四半期の実質 GDP 成長率は前期の -6.02%から大きく改善し5.22%となった。しかし第4四半期の成長率としては、過去10年では2020年の4.61%に次いで低い数字である。また2021年通年の成長率は、特に第3四半期に受けた新型コロナウイルス感染症のパンデミックの深刻な影響から、前年比2.58%にとどまった。第4四半期の成長率を部門別にみると、GDPの3分の1を占める鉱工業・建設業が5.61%（前期は-5.49%）と回復し、特に製造業は7.96%（同-4.09%）と成長を牽引した。GDPの4割を占めるサービス業も5.42%（同-8.57%）と大きく回復したが、運輸・倉庫業は0.86%（同-19.61%）とわずかな成長にとどまり、また宿泊・飲食業は-15.33%（同-54.06%）と依然としてマイナス成長である。株価指数は2020年3月以降上昇を続け、過去最高値の更新を続けている。貿易も好調で、第4四半期の輸出額は前年同期比で19.39%増、輸入額は同15.96%増となり、65億米ドルの黒字を記録した。（田村一軌）

## インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

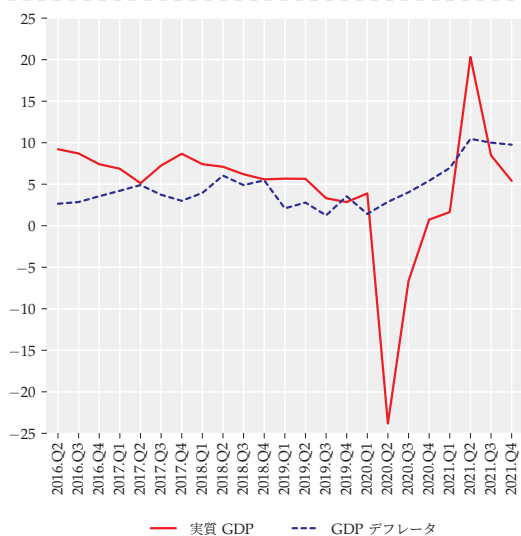


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

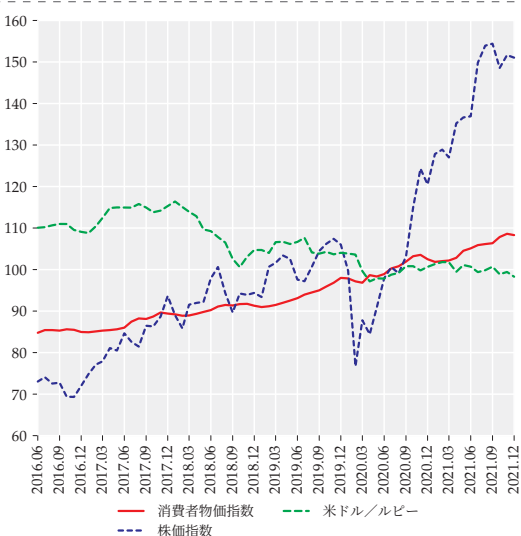
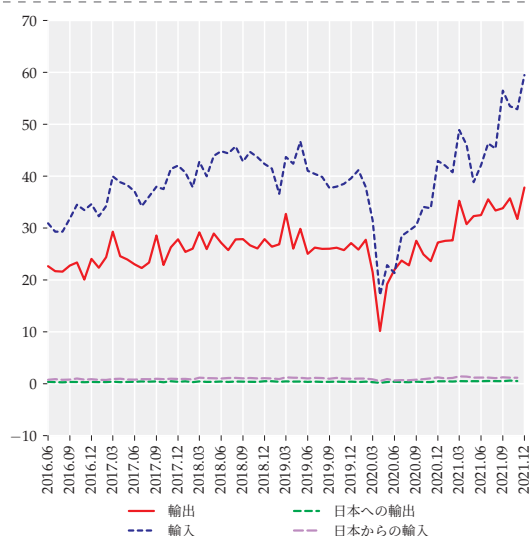


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インド経済の動向 (2021年第4四半期)

2021年第4四半期の実質 GDP 成長率は5.4%となり、前年同期(0.7%)よりも成長が加速した。第4四半期は、建設業以外の全ての産業において成長率がプラスであった。産業別に見ると、行政・防衛・他サービス業(教育, 医療・介護など)と鉱業・採石業の成長率が高く、それぞれ16.8%と8.8%であった。一方で建設業と製造業の成長率は低く、それぞれ-2.8%と0.2%であった。国家統計機構(National Statistical Organization)は2021年度のGDPの成長率の予測値を、従前の予想である9.2%から8.9%に修正した。下方修正となった主な理由は、2020年度の成長率が2022年1月に改訂され、-7.3%から-6.6%への上方修正になったことの影響である。専門家によると、すでにほとんどの州でパンデミック対策としてのロックダウンは解除されているため、2022年第1四半期のGDPはさらに成長する可能性がある。しかし、ロシアとウクライナの戦争が、成長率とサプライチェーンを混乱させる可能性も高い。(プラモッド・クマール・スール)

## 図に関するデータの出所および注

### 日本：

- 図 1 内閣府経済社会総合研究所 (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図 2 日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 3 消費者物価指数：総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/data/cpi/index.html>)；株価指数：日本経済新聞社，日経平均プロフィール (<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225>)；為替レート指数：日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 4 財務省 (<https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国，香港，韓国，台湾，インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムの合計

### 中国：

- 図 1 China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 2, 図 3 China, Statistics and Analysis Department, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn/diaochatongjisi/116219/index.html>)
- 図 3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 4 China, General Administration of Customs, *Statistics / Monthly Bulletin* (<http://english.customs.gov.cn/statics/report/monthly.html>)

### 香港：

- 図 1, 図 4 Hong Kong, Census and Statistics Department (<https://www.censtatd.gov.hk/en/>)
- 図 2, 図 3 Hong Kong, Monetary Authority, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin>)

### 韓国：

- 図 1, 図 2, 図 3, 図 4 Korea, Bank of Korea (<https://ecos.bok.or.kr>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EKSI1/history>)

### 台湾：

- 図 1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://eng.stat.gov.tw/ct.asp?xItem=37408&CtNode=5347&mp=5>)
- 図 2 Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-511-2069-A8BEF-2.html>)
- 図 3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5ETWII/history>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-480-58819-C8475-2.html>)
- 図 4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *CPT Single Window, Statistical Database Query* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA30E>)

### インドネシア：

- 図 1, 図 4 Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id>)
- 図 2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<https://www.bi.go.id/en/statistik/ekonomi-keuangan/seki/Default.aspx>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EJKSE/history>)；消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id/subject/3/inflasi.html>)；為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<https://www.bi.go.id/en/statistik/informasi-kurs>)

### マレーシア：

- 図 1 Bank Negara Malaysia, *National Summary Data Page for Malaysia* (<https://www.bnm.gov.my/national-summary-data-page-for-malaysia>)
- 図 2, 図 3 Bank Negara Malaysia, *Rates & Statistics* (<https://www.bnm.gov.my/rates-statistics>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図 3 株価指数：Bloomberg (<https://www.bloomberg.co.jp/quote/FBMKLCI:IND>)
- 図 4 Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics* (<https://metsonline.dosm.gov.my/>)

## フィリピン：

- 図1 Philippines, Philippine Statistics Authority, *National Accounts* (<https://psa.gov.ph/national-accounts/base-2018/data-series>)
- 図2 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Financial System Accounts* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Financial%20System%20Accounts.aspx?TabId=3>)
- 図3 消費者物価指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – Prices* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Prices.aspx?TabId=1>)；為替レート指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – External Account* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/External.aspx?TabId=9>)；株価指数：Yahoo Finance (<https://finance.yahoo.com/quote/PSEI.PS/history>)
- 図4 Philippines, Philippine Statistics Authority, *Foreign Trade* (<https://psa.gov.ph/statistics/foreign-trade>)

## シンガポール：

- 図1 Singapore, Department of Statistics (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/national-accounts>)
- 図2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Money-and-Banking.aspx>)；2021年7月から統計の集計方法が変更されたため、それ以降の前年同月比を計算していない。
- 図3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/prices-and-price-indices>)；株価指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Financial-Markets.aspx>)；為替レート指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Exchange Rates* (<https://www.mas.gov.sg/statistics/exchange-rates>)
- 図4 Singapore, Department of Statistic (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/trade-and-investment/merchandise-trade>)

## タイ：

- 図1 Thailand, National Economic and Social Development Council (<https://www.nesdc.go.th/nesdb-en/main.php?filename=nationalaccount>)
- 図2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatMFSSurvey.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic Indices ([http://www.price.moc.go.th/en/home\\_en](http://www.price.moc.go.th/en/home_en))；株価指数：Thailand, The Stock Exchange of Thailand, *Market Statistics* (<https://www.set.or.th/en/market/market-statistics.html>)；為替レート指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/ExchangeRate/Pages/StatExchangeRate.aspx>)
- 図4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatInternationalTrade.aspx>)

## ベトナム：

- 図1 Vietnam, General Statistics Office, *National Accounts* (<https://www.gso.gov.vn/en/national-accounts/>)
- 図2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図3 2017年3月までの消費者物価指数および為替レート：International Monetary Fund, *International Financial Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降の消費者物価指数および為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Consumer price index archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/cpi/>)；株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<https://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図4 2017年3月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, Thematic Data, *Import-Export archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/import-export/>)

## インド：

- 図1, 図2, 図3, 図4 Reserve Bank of India, Database on India's Economy, Statistics tab (<https://dbie.rbi.org.in/DBIE/dbie.rbi?site=statistics>)
- 図1 2021年第4四半期：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)
- 図3 2021年2月の消費者物価指数：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EBSESN/history>)
- 図4 日本との輸出入：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics* (<https://data.imf.org/dot>)